

『面白い』と思ってもらえるような
場所にしたい。



GoON!

Felice Kitchen 中森 晴さん

江田島オート 梶田 克哉

江田島市が好きになつた
ノは恵まれ

トを繼ぐ前から「デイーラー」に勤めていたそう。敷地内には、最新の車から貴重な昔の車も並んでおり、インタビューセンターにも思わず目が行ってしまう。「僕は昔の車が好きなんです。もちろん最新の車も魅力的なものが多いけれど、僕が持つていてる技術は、昔の車の方が通用する：なんてつたつて車とお喋りができるんで！だから、職場体験で学生が来た際には、昔ながらのイヤの交換方法などを伝えるようになります。今の車は性能が良いのでなかなか壊れないとは思いますが、何かあつた時のために知識として持つておくのは良いことだと思つてね」

いので大変ではありました
が、地元の人や家族に支えられながら、毎日忙しく過ごさせてもらっていました」移住当初は子育ての真っ最中だったこともあり、仕事もプライベートも忙しかったという梶田さん。そんな環境に変化が現れたのはここ3～4年の話だという。きっかけは、移住者をはじめとした、さまざまな人たちとの出会いだった。

「多くの人との出会いを経て、お気に入りのお店や場所も増えていくて、江田島市のことがもつと好きになりました」

今では『江田島オート』のかつての名前『江田島ちゃん』で通るようになつた。だからといって、梶田さんは周りに仕事を求めるわけではなく、みんなが気軽に相談できる存在になれればと話す。「頭の片隅に、そういえばこんな人がおつたなと思つても、ランクに相談してもらえれば」と思うし、僕自身もお世話をなつた人たちには、返していただきたいという思いがある。やっぱり人は、頼り頼られ、支え合つて生きていくものですから」

仲良くしてくれる人たちへの感謝の気持ちを忘れず、仕事でも仕事以外でも一生懸命働く。自分も誰かに刺激を与えられるような、面白い人の一員になりたいと語る梶田さんは、今後は車だけに留まらず、さまざまなお仕事を挑戦していくみたいそうだ。「今、江田島市は面白いと思うよ！移住の人たちも増えて、外から持つてくる知識とか経験とか見たり聞いたりするだけでも、刺激になります。だから先

自ら江ん事 のもなた車い生な話

A woman stands at a large window overlooking a scenic view of the sea and distant islands. A small green van is parked outside. The scene is framed by a red border with white Japanese text on the left.

ETAJIMA GoON!

Vol.11

『好き』を 生かして。



Vol.11
江田島オ一
かつ
梶田 克

『古いやり方』

案内された大きなショールームの目の前に広がる絶景。その絶景を見つめる美人なマネキンや、手描きのポップ、ぬいぐるみなどのディスプレイに驚いていると「これはお母さんの趣味なんよ(笑)。面白いじゃろ?」と声を掛けてくれた。「ショールームには普通は車があると思うんだけど、色々問題があつて置けない。だったら、海沿いの車屋さんという立地を生かして、綺麗な景色を提供しようと思つてね」そう言つて、満面の笑みを見せるのは社長の梶田さんだ。

江田島オートは、自動車販売や整備全般を行う車屋さん。梶田さんは3代目、結婚を機に江田島市に移住され、江田島オートを継いだ。出身は県の東部、福山方面だと教えてくれた梶田さんは、江田島オート

